

## 論 文 要 旨

区分	甲	論文提出者	江 頭 留 依
論文題目	Low Tongue Strength and the Number of Teeth Present Are Associated with Cognitive Decline in Older Japanese Dental Outpatients: A Cross-Sectional Study		
<p data-bbox="165 573 288 607">&lt; 目的 &gt;</p> <p data-bbox="165 620 1423 896">口腔健康状態と認知症との関連についての報告は多いものの、認知症の前段階とされる軽度認知障害（MCI）と口腔との関連についての研究報告はまだ少ない。MCI は、健常な状態へ回復する可能性もあるため、口腔の観点から認知症予防に取り組むことは重要であると考えられる。本研究では歯科外来患者において、歯周組織の炎症状態や咀嚼機能、舌圧などの口腔機能を詳細に評価し、認知機能の低下と口腔内の状態および口腔機能との関連を検討することを目的とした。</p> <p data-bbox="165 909 288 943">&lt; 方法 &gt;</p> <p data-bbox="165 956 1423 1232">歯科外来に定期受診中の 65 歳以上の患者 52 名のうち、Mini-Mental State Examination <math>\leq 23</math> の者および脳血管性認知症の疑いがある者を除いた 50 名を対象とした。年齢、性別、身長、体重等の基本情報、全身疾患、服薬状況の情報を質問紙調査で取得した。現在歯数、歯周疾患（CDC/AAP 分類）、歯周組織の炎症部位面積（PISA）および咬合支持域（Eichner 分類）等の口腔内状態を記録し、咀嚼能力、舌圧、嚥下機能（反復唾液嚥下テスト）の口腔機能を評価した。</p> <p data-bbox="165 1245 1423 1476">認知機能の評価は日本語版 Montreal Cognitive Assessment（MoCA-J）を用いて行い、25 点以下を「認知機能低下群」、26 点以上を「健常群」とし、2 群間における各調査項目の比較を行った。統計学的検定には、Mann-Whitney の <i>U</i> 検定およびカイ二乗検定を用い、有意水準は 5%未満とした。認知機能の低下と口腔との関連を検討すべく、年齢および性別を調整したロジスティック回帰分析を行った。</p> <p data-bbox="165 1489 384 1523">&lt; 結果と考察 &gt;</p> <p data-bbox="165 1536 1423 1767">MoCA-J の結果、19 名（38%）が認知機能低下群であった。認知機能低下群では、健常群と比較し、高い年齢（<math>P=0.008</math>）、現在歯数の減少（<math>P=0.014</math>）、咀嚼能力の低下（<math>P=0.035</math>）および 30kPa 未満の低舌圧（<math>P=0.023</math>）が認められた。ロジスティック回帰分析の結果、認知機能低下は年齢（OR=1.25, 95%CI 1.03-1.52, <math>P=0.024</math>）、現在歯数（OR=0.83, 95%CI 0.76-1.00, <math>P=0.047</math>）および低舌圧（OR=0.87, 95%CI 0.77-0.98, <math>P=0.022</math>）と関連していた。</p> <p data-bbox="165 1780 1423 1861">本研究において、舌圧をはじめとする口腔機能を維持することで認知機能の低下を予防できる可能性が示唆された。</p>			